



JCLIFE

2019年
10月号



一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL: 0848-20-1110 FAX: 0848-20-1112 E-mail: ojc@urban.ne.jp Facebook: <http://www.facebook.com/isojcnw>



9月18日(水)、しまなみ交流館にて、総務広報委員会設営の下、9月公開例会を開催しました。



ジャーナリスト・丸山ゴンザレス氏を講師にお招きし、テーマ

「Change the Values 〜世界を知ることから始まる無限の可能性〜」と題し、ご講演いただきました。

当日は、600名を上回るお客さまにご来場いただき、満席での講演となりました。

危険地帯を取材する中で経験された、様々な世界の情勢や現実、そこでの価値観など、非常に興味深いお話の数々でした。また、ご本人が出演されている番組での裏話もお聞きすることが出来、ご来場いただいたお客さまからも、非常に満足度の高い講演だったとのアンケートを多数頂戴しました。

講演会終了後は、書籍販売並びにサイン会を開催。

こちらにも、長蛇の列が出来るなど盛況となりました。丸山ゴンザレス氏も、一人ひとりに非常に丁寧に丁寧に対応されており、人間的魅力を感じました。

本事業を通じて、尾道青年会議所の活動を知っていただく機会になりましたら幸いです。

ご後援いただきました尾道市様、ご来場いただきました皆さま、本当にありがとうございました。



(記事：岡本正也)

ブロック大会

9月15日(日)庄原の地にて、公益社団法人日本青年会議所 中国地区広島ブロック協議会 第49回ブロック大会が開催されました。

「TURNING POINT みんなの未来を考える一日」と題しまして、子育て改革などのフォーラム、高校生スピーチコンテストや、庄原の地元の皆様による庄原空市ミニマルシエなど様々な事業が行われました。

また、SDGsをまちの皆さまに知っていたただく



ため、ゲームを交えたスタンプリリー「SDGsパーク」を実施しました。

各ブースではSDGsを身近で分かりやすくするためのアトラクションを設置しました。

その後、ブロックOB大会、そして大懇親会と、盛りだくさんの内容で行われました。

設営に携わった、広島ブロック協議会ならびに庄原青年会議所の皆さま、大変素晴らしい大会を、ありがとうございました。

(記事：村橋聡)



室合同委員会

9月25日(水)、尾道ロイヤルホテルにて、2020年度新体制での室合同委員会を開催しました。

次年度理事長予定者より、2020年度に向けた熱いメッセージの後、次年度委員会単位での初の委員会会議が行われました。

委員長予定者は、次年度に向けた方針や想いについて、メンバー一人ひとりに届くよう一生懸命伝えていました。

その後は、懇親会で親睦を深めながら、非常に和やかな雰囲気での閉会しました。

今年度事業がまだまだ盛り沢山ではありますが、未来を見据えて次年度の準備を進めてまいります。

全員が同じベクトルに向かって、尾道のまちとひとのためにお役に立てる活動を、今後も行ってまいりますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

(記事：島田元太)



様々なW杯

今年に入り、様々なW杯が開催されています。最近ではラグビーW杯の日本開催は、非常に盛り上がっていますね。日本は、ロシア、アイルランドと強豪を撃破し、ベスト8に指がかかっています(9月30日現在)。このまま行けば、JCライブ配信時には歴史的快挙で祝杯を上げているかもしれません。非常に楽しみです。

一方、バレーもW杯が日本で開催されています。女子は世界ランキング1位のセルビアを破るなど、見応えのある試合がたくさんありました。男子も勢いに乗って強豪撃破に期待したいですね。

個人的には、21年振りに自力出場したバスケW杯は、非常に嬉しい出来事でした。一時は東京オリンピックですら出場が危ぶまれた中で、奇跡的な活躍を見せました。しかしながら、ラグビー、バレーと違い、結果は5戦全敗…。NBA選手や、帰化選手の参加など、過去最強と謳われていましたが、結果を見れば世界的にはまだまだです。

思えば、サッカーW杯も、初出場のフランス大会では3戦全敗。中山雅史選手の1ゴールのみという結果に終わったものの、その後は毎回W杯に出場。今では決勝トーナメントにも進むなど、上位進出を十分期待出来るところまで来ました。

何事も、一つ一つの積み重ねで、世界との距離を縮めていっているのですね。いつかバスケ日本代表メンバー全員が、NBA選手…なんてことも期待したいものです。



ところで、W杯とは、一体どういった定義があるのでしょうか。調べてみると、このような整理がされています。

～団体競技では、国別の世界選手権大会(世界一決定大会)と同義。4年ごとに開催されるものが多い。

個人競技では、1シーズンにおいて世界の各地で数試合から数十試合開催し、それぞれの試合での順位をポイントに換算して、総合獲得点で年間王者を決定するワールドツアー形式をとっているものが多く、毎年開催される。

多くの国ではワールドカップと言うとサッカーの国別世界選手権(FIFAワールドカップ)を意味する事が多い。

サッカー以外の競技における「ワールドカップ」は「FIFAワールドカップ」の成功にあやかり命名されたものである。国際サッカー連盟(FIFA)は「ワールドカップ」の名称を商標登録しようとしたが、これが認められなかったため「FIFAワールドカップ」で登録した。そのため、他競技でもワールドカップの名称が使用できている。

なお、ニュージーランドなどのラグビー競技が盛んな国ではワールドカップといえば『ラグビーワールドカップ』、スキーが盛んな北欧ではスキーのワールド・カップを指し、逆にサッカーのワールドカップを『サッカー世界選手権』と呼んでいる。また、Jリーグ開幕前の日本ではワールドカップといえば『バレーボールワールドカップ』のイメージが強かった。～

とありました。

サッカーやラグビー、バレーだけでなく、ウィンタースポーツや競泳、ひいてはダーツや囲碁のW杯も存在します。まだまだ私たちがフォーカスしていないW杯があるのですね。

どのスポーツにおいても、世界を相手に頑張っている日本人選手を、心から応援したいですね。

「ガンバレ日本!!」

(記事：岡田 貴臣)



卒業生スピーチ



宮地 晃三郎

皆さまお疲れ様です。まだちょっと緊張はしているのですが、でも喋りたいと思います。今日色々

たくさんの方が集まっていたくださましてありがとうございます。本当だったから11月に喋る予定だったのでですけども業務と言いますか出張がちよと11月ずれそうになってきたので急遽10月のここで喋らせてもらおうかなと思っております。急遽プロフィール作ってくれた事務局の方ありがとうございます。私のプロフィールにあるんですけども山丸汽船(株)という会社に勤めておりまして、船会社なんですけども。そこでふつうにサラリーマンを従業員として勤めております。なのでJICという理事会だとかそういうのに入るような立場ではないんですけども、青年会議所の方へ入会させてもらいました。どういう経緯で入会したかというと突然働いていたら役員の方からちよとええかと社長室に呼ばれるんですね。皆さんにはわからないかもしれませんがその間、不安でしかありません。部屋に入ると社長からJICに入会させようと思うけどええかと言われ僕の中では社命なのかと思いきや転勤とか出向という事なのかととらえて、はい、わかりました。大丈夫です。という感じでJICの事などわからなかつたんですけども、JICの

人間が説明に来るからという事で、先に説明しときますけども弊社の社長もJICのOBでしてJICの方が説明に来るからと私の推薦者でもある池田誠先輩が来られまして、大丈夫じゃけえ大丈夫じゃけえ、昔みたいな事はないけどと言われまして聞けば聞くほど不安になるんですね。大丈夫じゃない事はどういう事なのか、昔は何があったのかとか、特にインターネットで調べたりとかしなかつたんですけどもとりあえず仮入会研修に来てくれという事でスーッと来てくれという事で来たら国旗があつたり国家斉唱があつたりちよとヤバイのかなとか不安が先に募ってしまったですね。そんな志なんかほとんどないですから嫌でしょうがなかつたんですけども社命という事で使命を受けたんですけども、初め山北理事長が山北委員長長の時に幹事としてやるんですけども、今考えると当時幹事と今の幹事を考えると僕、全然できてなかつたなと今感じております。特に委員会をサボろうとかズルしようとはそういう事はなくてですね。本当に来ないと当時の副委員長が美ノ上副委員長だったんですけども弊社の社長ともつうつうの中なので何言われるかわからないので一応サボろうとかそういうことはなく仕事の関係上では出て来れないことはありました。実は幹事なんですけどももう一人幹事がいたんですね、その幹事が本当に出ないんです。全く出てこなくて、鬼ごっこという卵見たいな感じで委員長に来るか来ないか連絡とつてと言われ

連絡をとると電話にも出ないたまに出ても何喋っているかわからないですね。何となく毎回怒っているんですね。幹事の仕事を鍵を取り行かなくてはならなくて返しに行くのも幹事がしなくてはならなくて唯一助かったのは鍵をセブイレブンのレジに返しておけば事務局に返しておいてくれるのでその辺は助かったのかなと思います。こういう話をネタにできるのも同期幹事の僕だけかなと思います。どの委員会も思い出深い委員会ばかりだったので時間が関係もありますので。自分の中で一番は人生でもJICでもターニングポイントにもなったのが2019年の委員長をさせて頂いた事です。この年がJICを一番やつたのかなと思います。一年半ずっと悩みっぱなしでしたし、こういう時に限ってプライベートや仕事だとか急に忙しくなるんです。プライベートでいうと1月に第二子が産まれたんですけども1月7日に陣痛が始まって病院の方に行くんですけども陣痛と同時に会社から連絡がきまして結構大きめのトラブルだったんです。個室で陣痛が始まってる中、僕は某造船所、管理会社等にすぐ電話していてその姿を見かねた看護士さんに陣痛始まったんで何とかならないんですかと言われ、いや、こつちも陣痛なんですよとという感じでもう怒るしかない状態でしたが何とか朝方産まれてくれたのでトラブルも次の日に仕切り直して打ち合わせをしようという事で何とか立ち合うことができました。1月はJICの行事もたく

さんあるんですけども、生まれた次の日が日曜日なんですけど造船所の関係者達が来られてこの件どうしようかという話になってまして、ちよと船が地中海を走行中のトラブルだったんです。修理するドックヤードがスペインにしか空いてる所がなく、もし自分が現場に立ち合うようになれば色んな所に迷惑かけるなと思っていました。ただ、当時委員長をやるという事から会社の方には考慮して頂いていたのですがたまたま僕の船を同僚に預けて中国にドックしていたので本当、僕しか立ち合う人がいなくて結果立ち合う事になるのですが新年例会、京都会議、ブロック、新春会議等、すっぱかす事も有り当時の理事長にはご迷惑をおかけしたのかなと思っております。でも良かったのがメンバーに恵まれたなと思っております。当時の大西副委員長にまともあげてもらって当時の友和幹事もすぐ手伝ってくれたりしてすぐメンバー恵まれたと思えました。本当毎日悩んで悩んで悩みまくりましたし大西副委員長に毎日のように電話して電話しない日はすごく不安になるぐらい電話しました。ですので大西さんは僕の女なのかなと思ってますし、もはや女でした。(笑)

何かそんなこんなで色々助けて頂きやり遂げる事が出来ました。翌年に吉田委員長の時に副委員長になったんですけどもちゃんと吉田委員長になったのかなあと感じております。

10月に入り、ぐつと涼しくなってきました。早いもので今年も残すところあと2か月。卒業生予定者の皆さまのスピーチを書き起こしていると、いろいろな想いが入り混じってきます。卒業予定者の皆さまと一緒に活動出来る時間は限られていますので、最後まで全力でJC活動を楽しんでいきたいと思ひます。

(記事: 吉田 高正)



HP facebook

卒業生スピーチ

私、社会開発室や祭り系の委員会が多く卒業年度の年はどこに行きたいかと聞かれ教育だとかいまままでいった事のない委員会を経験して見ようかと思っただけですが、でも、会社で言う定年を迎えるのと考え、何がJ.C.に対して何か恩返しができるのかなと考えた時に、防災や祭りだとかの脈とかをいかす為にも今の委員会にお願いしたんですけれども、今の大前委員長にはそんな心配いらなかったですね。しっかりと努めあげられているのかなと感じます。今、こうやって振り返っていて思うんですが結果論としてJ.C.に入って良かったと感じております。本当に犠牲にすることもたくさんありました。この場ではいちいちネガティブなことは言いませんが離婚しようかなと思う事もありましたし、会社を辞めた方がいかなと考えた事もありました。ただ、そういった犠牲あったからこそ得たものがここに有るんです。すごく勉強になりましたし、すごくいい経験をしました思っております。僕は今まで普通のサラリーマンでしたので経営者の皆さんから得るものっていうのがすごいありました。というのも物事の考え方、感性や視点というのが違っており、時には全く違ってやったり経営者の方と物事の捉え方が違うなど理事会だとかアフターだとかを通して感じました。またJ.C.の組織が単年度制で皆さんしっかりと役を全うされていますし、演じられている方もきちんと演じてられています組織についても勉強になりました。今はこういう立場でやらせて頂いており感謝する事が多いです。皆さんには感謝しています

し、家内にも感謝しています。よく耐えてくれたと感じております。会社にも感謝しています。中には反対の目やそういう空気を感ずる時もありましたが、会社のトップからは不思議と何も言われないうですよね。お金についても。むしろ必要だったら使えよと後押しまでして頂いてすごく感謝しております。返しようなない、返せるはずもない恩恵を受けたと感じております。僕はJ.C.暦も短いし、年下の先輩もおられるので特にJ.C.についてあしるうしろはないですが、運もよくサラリーマンの僕でもJ.C.に入れて良かったと思う事はこの場を借りて言い切らせて頂こうと思っております。これから先、従業員をJ.C.に入れてみようかとか又はこの場にいる子供さんにも入られるのではないかと思います宮地みたいな卒業生スピーチで入会して良かったといっていたなど少しも頭の隅に残してもらえたらと思っております。残りもわずかですが皆さんよろしくお願ひします。ありがとうございます。



山本 篤司

まずはこのような場を与えて頂き、ありがとうございます。

プロフィールを見て頂いても分かるように、9年間の在籍ですが自慢できることは何もありません。今日は自分なりの思い出を話そうかなと思っております。

仕事上船の上で過ごすことが多く、平成23年は特に何もできておりません。すみません。平成24年の幹事の際は一番頑張ったと思っております。頑張られてる委員長にずっとついていた記憶があります。この年に

ASPACに行きました。香港だったと思いますが、登録がされてなくて、マカオと香港を行ったり来たりしておりました。パスポートがこれで終わるのではないかとというくらいスタンプを押されました。この年は全国大会なども全部行つき、幹事の役割はできたかなと思っております。

翌年の平成25年は少ししか出れていないです。監査担当役員補佐もほとんどもう一方にお任せしておりました。この年もASPACに行つたのは覚えております。

平成26年は当時の委員長が病気をし、副委員長の麻生先輩が委員長となり、麻生先輩とよく飲みに行ったのが一番記憶にあります。

平成27年からは幽霊会員です。年に1、2回の出席でたまにアフターに行くような状態でした。平成28年は同期が委員長でしたので、頑張つて出席しようと思いましたが、結局出ることができませんでした。申し訳ありませんでした。

平成29年も全然出席できていない状態で、迷惑をおかけしました。平成30年は少し出席しまして、一番記憶に残っているのが委員会旅行です。委員会メンバーには記憶に残る出来事がありました。楽しかったです。

今年ですが、岡田委員会で卒業予定者ということもあり、非常によくしてもらっています。本当にありがとうございます。委員会は割と出ていますし、例会も出席しています。合同委員会は会場が新しくなっています。合同委員会は会場が新しくなっています。

皆さんに何もお教えできないことはありませんが、私のようにならないようにして頂いて、家族・会社・J.C.を平均的にやっってください。どれかに偏り過ぎるとあまり良

くないと思います。

この後の徳永君が長いスピーチだと思えますので、この辺りで私の卒業生スピーチを終了させて頂きます。本当にありがとうございました。



徳永 剛志

こんばんは、徳永です。ただでさえ話が長いので、約10年間のJ.C.生活を丁寧に振り返りますとみんなの視線が段々鋭くなつてきますので、みなさんに早くアフターで気持ちよく飲んでもらうためにも、私なりにまとめたスピーチをさせて頂きたいと思ひます。

突然ですが、みなさんは禊つて知っていますか。不祥事を起こしたとか不倫したとか、そういう悪いことをした時や反省したい時に自らの身を清めて穢れを祓う伝統的な神事です。私、七年ほど前に中国地区協議会に出向した時に委員会で一発目の事業として、真冬の大雪の浜辺で白ふんどし二丁で禊をやりました。この時はなんて所に来ってしまったんだと思ひまして、本気で遺書を書くかと思ひました。昔のスパルタ学習塾みたいな感じで、「心頭滅却すれば火もまた涼し！」てな具合に気合を入れてから海に入っていました。その次の事業では口ウソクを持って正座して、精神統一ができていれば口ウソは垂れてこないし、熱くないので無心になって自分を見つめ直せというセミナーを受けました。講師の先生が私達受講者に語りかけるんですが、いきなり「お前はろくでなしか！」等と言われてびびくりして、訳がわからなかったですがとにかく鍛えられました。

最初の地区出向がそんな感じで、他にも初めて広島ブロックに出向した時に憲法の委員会に配属になりました、そこでは子ども達に憲法について知ってもらおう、学んでもらおうという事業を行っていました、その中で「ケンポウジャーショー」をやりました。みんなで戦隊物のコスチュームを着て、「日本国憲法について学ぼう！」みたいな感じでヒーローショーをバラ公園でやったんですけど、下っ腹の出た三十代のオヤジが五人そろってコスチュームに身を包んだ姿は少々見苦しいものでした。しかもショーをやっている最中に楽屋に空き巣が入りまして、全員が疑われて所轄署に取調べを受けて指紋を取らされて、人生初の警察にお世話になった時でした。仮入会員のみなさん、この前の研修の時にも言いましたけども、本日に日常では経験できないようなことが経験できますので、ぜひ入会されてから出向を頼まれましたら快く受けてください。

さてここから私が入会する時の話になるんですけども、本当に私はJ.Cに入るまではダメな男でした。僕らの世代はちょうどロストジェネレーション世代といって就職超水河期という時代背景もあったんですけど、友達はみんな無事に卒業して就職も決めてました。そんな中でフラフラしていた自分は、留年して単位ギリギリで卒業するも就職活動で苦戦した末、大阪の冷蔵倉庫会社に入りました。そこでも本当に仕事が辛くて嫌でダラダラとした日々を過ごしていたんですけど、大学の先輩からも「前だけは本当に心配だな」と心底心配されてました。その大阪の冷蔵倉庫会社を退職して地元へ帰ることが決まった時上司から、「たった四年で帰るんか？お前

はまだ十年は修行せなあかんぞ！」と言われながら帰りました。そして地元の三原に帰って結婚しまして、当時父が社長を務めていた今の会社に入社したんですけど、帰って来た当時は正直倉庫の仕事が嫌で、毎日腐ってモヤモヤしてました。J.Cには帰ったその年から噂を聞きつけた方々に勧誘をされました。その時には太田さんにも誘われて「J.C.どうですか」と言われたんですけど、うちの会社に太田さんが一人で勧誘に来られて「僕興味ないぞ」と言われた太田さんを門前払いしてしまいました。その節は本当に申し訳ありませんでした。そんな感じで三年くらいゴネたんですけど、最後に銀沼川先輩や麻生先輩をはじめとする、中高の先輩方が大挙して我が社に乗り込んで来られて、これはもう逃れられないなと思って入会を決めました。入会して劇的に環境が変わりましたし、それまでずっとダラダラと流れるように生きてきた自分に、自分で考えて動かなければならないという自立性と協調性がJ.C.活動では求められるんです。大阪時代と同じようにいっぱい叱られました。これも会社に関心を持ってはなかなか経験できないことですし、そんな中でいろんな先輩にご指導頂きました。

特に苦しかったことは、2013年に最初に理事にならせて頂いて情報ネットワーク委員会という広報の委員長をさせて頂いた時でした。三年目に初理事・初委員長ということで周りは年上の先輩ばかりで本当に気を遣っていました。また二年目に所属した西本先輩の委員会と二年目の村上忠正先輩の委員会と、全然委員長のキャラ

も違うし全くカラーが違う、お二人共強烈なカリスマ性を持った委員長だったので、さて自分は一体どうしたらいいんだろうと本当に迷いました。なかなかうまく年上の先輩方に仕事を振ったりすることもできなくて、最後までいっぱいいっぱいで終わってしまったなというのが今も悔いの残るところではあります。中でも忘れられないのが大山登山で：安楽城副理事長が委員長の時ですね。あの時忘れられないのが、副委員長が二合目でリタイアされてしまいました。自分も真っ青で死にそうになってたんですけど、副委員長も倒れてしまったし絶対に俺は倒れる訳にはいかんかと気合で登頂しました。田中さんもバテバテで村上成司さんはボーカーフェイスで最後までひよいと登られて、本当に疲れているのか元気なのかわからない成司さんらしい感じでした。一番元気だったのが卒業予定者だった河井先輩であつたという間に見えなくなつて、こっちは死にそうな気持ちで登りました。でもあれもJ.C.だからこそ経験できたことだと思つてます。

僕は本当に口下手で未だに人に意見とかアドバイスだとか上手く言えなくて：大学時代とか、先輩が先輩に恋愛相談とかするじゃないですか。でも全然先輩から悩み相談とかされたことがなくて、まあ当時は恋愛経験がなかったので相談されてもわかんないので仕方がないんですけど、人に相談されたり頼られたりするってところが全くなくて本当に口くでもないやつでした。ですが、そんな自分も去年大学の同窓会に久しぶりに顔を出したら「徳ちゃん変わったよね」って先輩たちや同期に言われて、自分では実感がありませんけどやっぱり成長できているのかなと思いまし

た。これもやっぱりJ.C.が自分を育ててくれたからだと思うっております。皆さんに最後にお伝えしたいのが、人それぞれ得手不得手が必ずあります。力持ちの人、喋りが得意な人、映像に強い人とか必ず皆さんひとつは長所があると思うんですね。日頃の委員会等で、僕みたいに長くJ.C.やってきてもなかなかうまくアドバイスとか意見とか言えない人もいます。そういう人は言葉じゃなくとにかく行動で示してあげてほしいと思います。委員長をしっかりと助けてあげて欲しいと思います。初めて理事や委員長を務められる方は全てが初めてでわからないことだらけです。特に若い年齢でなられた方についてはやっぱり年上の人たちに気を遣いますし、なかなか思ったことが言えないとか、モノが頼めないとかあると思うんですね。その時はそういう心情をちゃんと理解してあげて、とにかく自分なりの形で協力してあげて欲しいと思います。必ずしてあげたことは何年か経って自分に返ってきますので、そこは本当によろしくお願いしたいと思えます。そして、泣いても笑っても四十歳までしか活動ができません。自分が尾道青年会議所の二員として、まちのために、明るい豊かな社会の実現のために確かに尾道J.C.で活動をしていんだという「己の証」を刻んで欲しいと思います。この「証」っていうのは、僕が初委員長の時のスローガンでした。いろいろと雑駁な話となりましたが、本当にこんなダメな僕を約十年間温かく見守って育ててくださいましてありがとうございます。まだ年末まで残り三ヶ月弱ありますがどうぞよろしくお願ひします。ありがとうございます。